

東建発第 440 号
平成20年10月15日

国土交通省道路局長 殿

東串良町長 奥 園 拓 夫



今後の道路行政についての意見・提案について

このことについて、別紙のとおり提出します。

地方分権が進み地域間競争が激化する中、農林水産物の安定供給や市場の拡大、新たな企業の推進や誘致、環境産業の振興など、県勢の浮揚発展を図るためには、高規格幹線道路など高速交通網の整備を一層推進する必要がある。

しかしながら、道路特定財源については、道路特定財源に関する基本方針が閣議決定され「必要とされる道路は着実に整備する」として、今後の具体的な道路整備の姿をしめす「中期計画は5年とし、最新の需要推計などを基礎に、新たな整備計画を策定する」とされたところでありますが、地方の道路実情を十分反映した計画になる事を強く希望し要望したい。

電車や地下鉄、バスなど多様な交通手段を利用できる都市圏と異なり地方は自動車交通以外の交通手段が少なく幹線道路整備も依然として立ち後れている鹿児島県大隅地域の中にある東串良町など地方にとって、道路特定財源が地方へ十分配分されずに一般財源化されることは、非常に受け入れがたいものであります。

つきましては、都市圏よりも地方の道路整備の重要性を深く認識され、都市圏と地方との格差是正のため、地方への重点配分及び地方道路財源を確保し豊かな町民生活の実現と地域の均衡ある発展を図るため、整備が遅れている鹿児島県大隅地域の高規格幹線道路など高速交通網の整備を図るとともに当町の国道、県道市町村道に至る道路網の整備を一層推進することを強く要望いたします。

また、地方部におきましては、橋梁等の老朽化に伴う改修拡幅の時期もきております。このような各市町道路橋につきましても改修及び維持的経費を含めたさらなる財源的な配慮をお願いしたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

鹿児島県東串良町

○現状

高齢化・少子化等による人口減に伴い地域が衰退し活性化が非常に阻害される。

また、日本の自給率向上に欠かせぬ農林水産業の担い手となる若者の地域離れは深刻な問題である。

○課題

鹿児島県大隅半島の人口減対策として雇用対策が必要となる。基幹的産業となると一次産業となるが、企業的経営農家等の育成にも力を入れている状況ではあるが、なにぶんにも収穫した穀物の安定的な流通経路としての道路網の整備が遅れているため早急の道路網整備が必要である。

また、道路網整備により広大な土地を生かした企業誘致また地場産業等の育成にも期待が膨らむ。さらには、農林水産業の担い手の確保これにより都市圏への安全・安心な食糧の供給が見込まれ、国自体の自給率の向上にもつながる。

②-2 地域の目指すべき将来像

当大隅地域は、鹿児島県の中でも一次産業を基幹とする地域であり当東串良町も一次産業を基幹とし、その中でもピーマン・キュウリは、「かごしまブランド」にも指定されている。

また、畜産を含め主食である米の生産量も多い。日本の穀物自給率が40%に満たない状況下50%以上の自給率向上が国の施策としても打ち出されている。

大隅半島は、広大な農地また水産資源により食の一大産地となりうる地域である。また、これを目指している。食の安全・安心、そして安定的な供給を図るため、またこの、農林業水産資源を生かした地域の地場産業を育成することにより地域の雇用力を高め、過疎化も抑えられ地域の大きな振興策となる。

このためには、大隅半島全体を大食糧基地としてとらえ、その流通交通網の整備を図ることが第一であり、そのためには東九州縦貫道の早期完成そのアクセス主要道路である国道504号の早期完成。さらにその幹線への地方道の改修も含めて必要不可欠である。

さらには、食の流通手段として中核国際港湾である志布志港の活用も大きくなると思われ、そのアクセス道路である国道220号線の改修は基より半島から志布志港を結ぶ道路として国道448号線の早期改修も望まれる。また、このことにより、都市圏への食の安全・安心な食料の安定的な供給にもつながることは必至である。この構想の中で志布志湾岸を経由し直接志布志港を結ぶ湾岸道路の新規着工を希望するの声も多い。実現すると混雑する国道220号線の交通量の分散にもつながる。

また、新幹線が鹿児島まで開通・また近隣アジアからの国際線開通による日本内外からの観光目的の利用者も増えている。薩摩半島指宿を経由、または桜島を経由し、大隅半島をめぐり日南海岸より宮崎へ抜ける観光経路、さらには、この逆のルートを構築し大隅半島の観光資源である本土最南端佐多岬、内之浦のロケット基地、鹿屋市バラ園、日南海岸国定公園に位置する志布志湾岸の白砂青松・咲き誇る黄色い絨毯ルピナスの花等々、大隅半島の観光資源を生かした観光ルート開発にもつながる。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

鹿児島県東串良町

○重点事項 少子高齢社会に 対応した総合的 交通安全対策	○代表事例 国道220号線歩道改修及び交差点改良	○期待する効果や評価等 東串良町では、高齢化率が33%と非常に高くまた、人口も毎年減となる状況であり、対策の一つとして国道隣接地に定住化促進住宅の事業を導入し付近は、57戸の新規住宅が立ちならび今後さらに60戸の若い世帯が定住の予定である。 こういう状況の中危険な交差点を改修し歩道を改修することは、地域にとっては早期改修を願う課題である。 特に今回のバリアフリー化を含めた歩道改修により安全で高齢者・障害者に特に優しい歩道が設置され、歩いて買い物病院等へ出かける機会の多い地方の高齢者には、非常に喜ばれるものと思われる。 また、定住化等で増えてくる子供達・今後の日本を担う大切な子ども達の通学を含め日常生活時の安全確保は、必要不可欠である。	○その他
---------------------------------------	-----------------------------	---	------